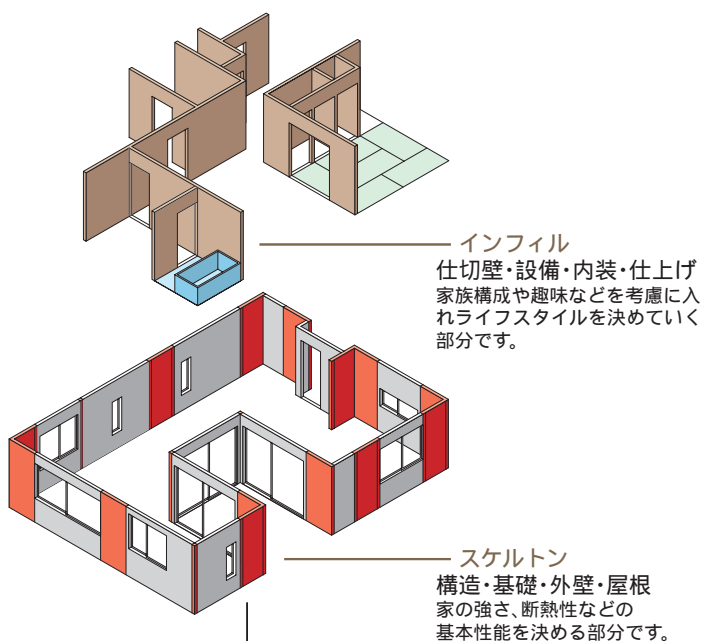


間仕切りを必要としない住宅革命。

最大空間を可能にするスケルトン&インフィル

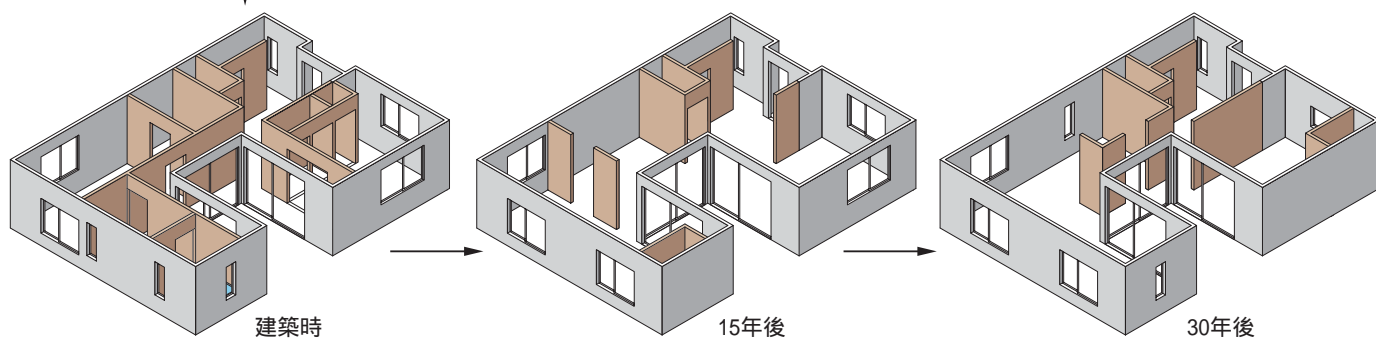
SKELETON & INFILL

重量木骨の家は、木造住宅初のスケルトン&インフィルを実現しています。これは構造(スケルトン)と、設備や間仕切壁(インフィル)を別に考える発想で、構造フレームのみで全体強度を保つため、間仕切り壁などを必要としません。居住空間を最大限に活かしたワンルームから、自在な間取りまで自由な空間作りが可能です。



スケルトンとインフィルが分けられる住宅

「スケルトン&インフィル」とは、建物を「スケルトン(構造体)」と「インフィル(内装・設備)」とに分けて設計する考え方のことです。構造体そのものは簡単に変えることはできませんが、内装や設備は古くなったらリフォームをして変えることが可能です。そこで問題となるのが部屋と部屋を仕切る「間仕切り壁」になります。この間仕切り壁が、スケルトンとなるか、インフィルになるかで将来、大変大きな格差が生じます。もし、スケルトンであれば簡単に変更することはできません。無理やり変更すると耐震性が著しく劣り、非常に危険な建物になってしまいます。しかし、インフィルであればライフスタイルや家族構成の変化に応じ、自由に簡単に、そして安全に変更することができます。一般の在来木造住宅の場合は、耐震性を高めるために多くの柱と筋交い(耐力壁)が必要になるので、間仕切り壁も構造体の一部として設計せざるを得ません。壁面のみで支える2×4工法住宅も同様です。これでは本当の「スケルトン&インフィル」とは言えず、ロングライフ住宅としては不完全なものといえるでしょう。「重量木骨の家」は壁に頼らないSE構法で施工されているため、木造住宅で唯一「スケルトン&インフィル」を実現しているのです。



建築時・15年後・30年後、必要に応じてライフスタイルを容易に変える事が出来ます。